

編集後記

この度は、イニシエイティブ第二号をお手に取って下さり、本当にありがとうございます。

イニシエイティブは、昨年度末に創刊したばかりの全く新しい文芸部の作品集です。しかしながら、掲載作品の作者ならびに編集はすべて古^{いにしえ}の文芸部員、すなわち所謂OB・OGであり、新しさと古さを兼ね備えた特別な作品集となっています。

したがって今こうして編集後記を紡いでいる私も茨城大学のOBの一人であり、一般には文芸部のOBと言われる存在ですが、私は文芸部があまりにも好き過ぎました。私はどちらかといえば自己開示が嫌いなきらいがあり、これまでオープンにすることは無かったのですが、この機会に少し自分の考えというものを綴ってみたいと思います。自分語りなんて聞きたくないという方は、十四行ほど読み飛ばして、このページ二段目中ほどまでご移動ください。

さて、この文章を読んでいる奇特な方に改めて申し上げたいのは、私が文芸部を好き過ぎる、ということです。そしてこれは、文芸部を築いてこられた、数多の先輩方が好きである、と言い換えることも出来ず。私が文芸部に入部したころ、この部にとっ

て、OB・OGの存在は身近な物でした。少なくとも私は、そのように感じていました。先輩方と共に様々な場所で食事をしたり、出かけて牛久大仏を拝観したり。たくさんさんの思い出が、私を形作っています。また各種のイベントに参加される先輩方を見て、もっと来て欲しい、遠慮なんていらない、ただそこにいてくれればいい。そんな風に思っていました。目指した先輩に、私はなれているのでしょうか。

イニシエイティブは、新型コロナ禍によって断絶が生まれかけた、文芸部の今と昔を繋ぐかけがえのない架け橋です。今回の第二号の製作にあたっては、一時は作品量が不足し、二回目にして廃刊の危機を迎えそうにもなりましたが、文芸部の伝統を継ぐ現役部員から大先輩までの幅広い皆様のご協力を以て完成にこぎつけることが出来ました。感謝の念に堪えません。また、今号では小説に加えて随筆の部が追加され、ますます多層で多彩な文学をお届けできるようになったと感じております。

イニシエイティブという存在が、さらに多くの先輩方、そして新しい卒業生を優しく結び、作者自身、そして読者の皆様の人生を豊かにするものとなりますように。茨城大学文芸部の弥栄を祈って。

(M o t o .)

どうやら秋という季節が消滅の危機に瀕している今日このごろ、みなさまいかがお過ごしでしょうか？ かつて二〇一二年度に入學し、文芸部に所属していた針乃というOBです。前回のイニシエイトに短い原稿を寄せさせていただいたご縁で、今回編集後記を書かせて頂きます。

ところで私事になりますが、私は先日南極大陸にて発見された古代遺跡の発掘調査に同行いたしました。エジプトやマヤに代表される石積み型の巨大ピラミッドが氷の中から発見され、考古学者としてその内部調査に協力したのです。しかしピラミッドの中は地獄でした。

実はそこは純粹なる人類の文明の跡地ではなく、太陽系外から飛来した狩猟者型宇宙人「プレデター」が建造した場所だったのです。ピラミッドに誘き寄せられてやってきた人間を餌に、寄生・成長する凶悪な宇宙生物「エイリアン」の自動孵化施設……。それがその遺跡の正体でした。

若年のプレデターたちには、エイリアンという怪物を討伐することを通して、狩猟者として一人前の

成人になったことを証明することが求められます。すなわち、このピラミッドもこの地球も、彼らにとってはイニシエーションのための血塗られた祭壇に過ぎず、我々人類もそのための単なる生贄でしかなかったのです……。

私を除く調査隊はすべてエイリアン&プレデターの襲撃によって血の海に没し、私だけが命からがら逃げ戻りました。しかしショックで頭髮がすべて真っ白になり、腕と脛の毛が全部抜けてしまいました。おかげで以前から通っていた脱毛サロンからも晴れておさらば、いまではときおり腋毛のみを剃る余生を送っております。

現役の方もOB OGの方も、普段の生活のあれこれでお忙しいこととは思います。しかしちょっとした時間にでも読んだり書いたりしてみますと、心地を取り戻すためのよい息抜きとなってくれるのではないのでしょうか。

今後のみなさまの生活の安寧と文芸部のますますの発展を祈りつつ。

（針乃）